



輝けはばたけだれもが主役 2012

ぎふ清流国体 ぎふ清流大会



いよいよ開幕！ぎふ清流国体



10月5日からは、いよいよぎふ清流国体下呂市会場において、ハンドボール（成年女子）の1回戦が行われ、翌6日からはソフトボール（少年男子）も始まります。市内の至る所で目にする、国体歓迎のぼり旗や、各団体・個人のボランティア活動など、大会にむけての機運がさらに高まってきました。

期間中は、県内外からたくさんの方の選手や関係者の皆さんが下呂市を訪れます。

市民の皆さんが一丸となって、「おもてなしの心」を發

◆ソフトボール（少年男子）
（会期・10月6日～8日）
（会場・あさぎりスポーツ公園 多目的G、野球場）
トーナメント方式、通常7回戦。ピッチャーは必ず下手投げで、手と手首が体側線を通りながらボールを離さなければなりません。盗塁も事前リードは許されず、投球の

◆ハンドボール（成年女子）
（会期・10月5日～9日）
（会場・下呂交流会館）
1チーム7人でパス・ドリブルでボールを運び、相手ゴールへ投げ込んで得点を競う競技。選手の素早い動きと空中での華麗なシュートが見ものです。

全国から19チーム247人の選手が参加します。

下呂市内で開催される競技の詳細な組み合わせ日程などは、この広報紙と併せて配布されている「ぎふ清流国体下呂市開催競技のご案内」のチラシをご参照ください。

全国から13チーム182人の選手が参加します。



下呂市内で開催される競技の詳細な組み合わせ日程などは、この広報紙と併せて配布されている「ぎふ清流国体下呂市開催競技のご案内」のチラシをご参照ください。

「ぎふ清流大会」出場選手
【陸上競技】
（10月13日～15日・長良川競技場）▽50m、ソフトボール投・矢嶋章浩（25歳）▽100m、200m・松井麻綾（21歳）
【卓球】
（10月13日～15日・大垣市総合体育館）▽片岡宏王（飛騨特別支援学校下呂分校2年）
【車椅子バスケットボール】
（10月13日～14日・ふれ愛ドーム）▽熊崎正之（37歳）▽大久保弦（35歳）
【グラウンドソフトボール】
（10月13日～15日・揖斐川健康広場ビッグランド）▽安藤勇二（21歳）▽松田徹也（35歳）▽進藤昌登（50歳）

★おめでとう（敬称略）
「ぎふ清流国体」出場選手
【陸上競技】
（10月5日～9日・長良川競技場）▽走幅跳・中村光希（益田清風高3年）▽砲丸投・伊藤勇吏（同3年）▽200m、リレー・小池讓也（下呂中3年）

全国自然敬愛サミット 2012



小坂町のがんだて公園にある三ツ滝

自然敬愛サミット

8月23日、下呂交流会館泉ホールで全国自然敬愛サミット2012が開催されました。

このサミットは、国内の森・滝・渚の百選に選定された景勝地を有する自治体が参加し、平成19年に組織された「日本の森・滝・渚全国協議会」と下呂市が主催したものです。協議会の活動目的は、魅力ある自然環境資源を効果的に活用し、地域相互の連携により情報の集積を図り、地域の活性化や知名度向上に取り組むことです。

下呂市は、小坂町にある「根尾の滝」が日本の滝百選に出されていることから、協議会に加盟しています。

自然の恵み

野村市長は開催地代表のあいさつの中で、「平成20年に小坂の滝めぐりが岐阜の宝物『第1号』として認定され、地元NPOを中心に自然資源を生かしたまちづくりが進められています。わたしたちは、豊かな自然資源を環境に配慮しながら産業振興へとつなげ、自然の恵みへの感謝の気持ちを忘れず、魅力ある自然資源の保全に努めていかなければなりません。」と、自然に対する敬愛精神の大切さを伝えました。



開催地あいさつをする野村市長

小坂の滝めぐり

女優藤田弓子さんの記念講演や、協議会顧問の三島昭男さんの特別提言に続いての事例発表では、「NPO法人飛騨小坂200滝」理事長の桂川淳平さんが、「小坂の滝めぐりツアー」の紹介をされ、「霊峰御嶽山からの恵みとして感謝する気持ちを大切に、地域と一体となって取り組んでいきたい。」と、自然に寄り添いながら活動を続けていることを発表しました。

下呂宣言

サミットの最後には、授業の一環として滝めぐりガイドに取り組んだ、益田清風高校総合学科観光産業系列の5人の生



益田清風高校のみなさん
下呂宣言を発表すると、会場では大きな拍手が沸き起こりました

徒のみなさんが登壇しました。自分たちが体験し感じたことをもとに原案を作成した「下呂宣言」では、「日本各地に散らばる輝かしい自然の宝物。そこで生まれ育ったわたしたちは、自然への感謝と尊敬の気持ちを忘れることなく、確実に次世代へつないでいかなければなりません。本日ここ下呂市に集結したわたしたちは、どんな小さな事でもまず行動を起こし、あらゆる努力を笑顔を持って取り組むことを宣言します。」と、澄んだ声が場内に響きわたりました。わたしたちのまわりの自然環境。いつまでも豊かな自然を後世に残していけるよう、敬愛の念をもって守り続けていきたいものです。